



AIG Companies in Japan 2017



ACTIVE CARE

この国に、新しい保険の夜明けがやってくる。

それは、先回りする新しい保険の考え方。まさかの時だけでなく、まさかが起こらないように、世界中の知見と最先端テクノロジーを駆使して、あなたをリスクから守っていく。

私たちAIGグループは、日本の保険の常識を変える新しい提供価値をもたらすために、
グループ統一の事業戦略コンセプトとして「ACTIVE CARE」を展開します。

「ACTIVE CARE」はAIGが世界中で蓄積してきた知見や、リスクの認識および軽減につながる最新のテクノロジーを活用し、
日常に潜むリスクを的確に把握しながら、そのリスクに備えるためのサポートをご提供するものです。

起きてしまったできごとへの経済的な補償だけでなく、そもそも事故が起こらないようにリスクを最小化する予防的サービスを、
目に見える分かりやすい形で積極的にご提供し、保険をより身近なものへと変えていくことを目指します。

ACTIVE CAREを構成する三つの要素

1

すべてがシンプルで、
分かりやすい。

どんな新しいサービスや有益な情報も、うまく伝えられなければ意味がありません。私たちは、お客様の立場に立ち、お客様それぞれに合わせたサービスを提供していきます。

2

リスク情報を、
事前に。

お客様を深く理解しているからこそ、お客様の気づかないリスクにまで気づくことができます。そして、事故や損害を事前に防ぐ、情報やアドバイスを提供していきます。

3

AIGならではの
先進性。

私たちAIGが、世界中で蓄積してきた最先端の知見やテクノロジー、そして、長年日本で培った洞察力でお客様にとっての保険の価値を高めていきます。

AI G in Japan

日本のお客さまのために－「ACTIVE CARE」という新しい挑戦

日本におけるAI Gの事業は、AI Uが1946年に戦後初の外資系損害保険会社として営業を開始したことに始まります。以来70年以上にわたる長い歴史をお客さまと共に歩み、AI Gの世界的な事業展開において日本は特に重要な位置を占めるまでとなりました。

そして今、私たちは「ACTIVE CARE」という、新しい挑戦を始めます。万一の事態に際しての補償だけでなく、日々の生活の中でのまさかを未然に防ぐためのサポートを提供し、お客さまにとっての保険の価値を最大限に拡大することが、今こそ必要だと考えるからです。私たちAI Gは、確かな実績とグローバルネットワークによるシナジーを最大限に活かしながら、日本のお客さまに対する深い理解に基づく的確なソリューションを提供し続けてまいります。

日本におけるAI Gグループ会社の沿革

- 1918年 富士火災海上保険株式会社の前身である、日本簡易火災保険株式会社設立
- 1946年 AI Uが、外資系損害保険会社としては戦後初めて、日本で営業を開始（当時はAI Uコーポレーション(AI UC)日本支店)
- 1949年 日本簡易火災保険株式会社が、富士火災海上保険株式会社に社名を変更
- 1960年 アメリカンホーム、日本での損害保険事業免許を取得
- 1982年 アメリカンホーム、日本で初めて傷害保険の通信販売の認可を取得
- 1989年 ジェイアイ傷害火災保険株式会社設立（当時はジャパン・インターナショナル傷害火災保険）

- 2010年 富士火災を、AI Gの連結対象子会社化
- 2011年 富士火災を、AI Gの100%グループ会社化
- 2013年 AI Gジャパン・ホールディングス株式会社、保険持株会社として事業開始
AI Uが日本法人化し、AI U損害保険株式会社に社名を変更
- 2014年 アメリカンホームが日本法人化し、アメリカンホーム医療・損害保険株式会社に社名を変更
- 2018年 AI Uと富士火災が関係当局の認可等を前提に合併、AI G損害保険株式会社が誕生予定

日本のAIGグループの組織

日本では、AIU損害保険株式会社、富士火災海上保険株式会社、アメリカンホーム医療・損害保険株式会社、ジェイアイ傷害火災保険株式会社が保険事業を展開するほか、様々なグループ会社が関連事業を通じて日本のお客さまをサポートしています。AIGジャパン・ホールディングス株式会社は、日本におけるAIGグループの保険持株会社として、AIGの日本事業を統括し、傘下保険会社および子会社の経営管理を行う役割を担います。

